

# 住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第72号 平成22年12月28日  
発行 住友化学(株) アグロ事業部  
お客様相談室 0570-058-669  
編集者 佐伯晴子  
発行責任者 古津昇

## 目次

農家さん訪問記 (57) . . . . .	p.1
西瓜・スイカ雑学 (11) . . . . .	p.6
食の安全性について考える(20) . . . . .	p.8
今月のお奨め農薬 . . . . .	p.9
今月のご相談から . . . . .	p.10
農薬登録情報 . . . . .	p.11
病害虫発生情報 . . . . .	p.14
最近の「お・・美味しい!」 . . . . .	p.15
コラム・そば談義(最終回) . . . . .	p.16
編集後記 . . . . .	p.16



オオカワラヒワ(アトリ科)とノバラ(バラ科)  
富樫 信樹 画

## 農家さん訪問記(57)

### 少し欲得を抑えれば農業は面白くなる!

今回は群馬県太田市藪塚を訪問し、露地野菜を栽培されている新井裕(ゆたか)さん(63歳)にお話を伺いました。(取材日12月3日)

### 機械修理や保守の仕事から農家に転身!



新井 裕(ゆたか)さん

群馬県太田市は、北関東を代表する工業地帯として発展してきた地域です。一方、農業では、利根川と渡良瀬川に由来する豊かな水と、年間を通じた長い日照時間という恵まれた自然条件に加え、都心の大消費地に近いという地の利を活かした野菜栽培が盛んです。今回お話を伺った新井さんの経歴は、このような地域の特徴と深く関わりがあります。

新井さんは、太田市内にある実家が板金加工や機械設備の修理・保守の会社をしていた関係で、ご自身も同じ仕事をしていました。昭和48年に結婚して新井家にご養子として入られましたが、地元大企業の工場の設備の保守を担当していたこともあり、その後も機械関係の仕事を続けていました。農業については、新井家のご

両親を手伝う形で始めました。その後、本格的に露地野菜の栽培を始めたのは、昭和61年のことです。その時の作物はごぼうでした。

新井さんのご家族構成は、奥さん、娘さんご夫妻、お孫さん（1歳半の男児）の5人家族です。農作業は、奥さんが手伝うこともありますが、主にご自身とパートの方で行っています。この地域では、農業は家族だけで行うのが一般的でしたが、いち早く人を雇うことにしたそうです。なお、息子さん（ご養子）は、土木関係の仕事をしています。

現在の主な栽培作物は、ごぼうが約1.5ヘクタールとねぎが約1.3ヘクタールです。このほかに、干し大根を10アール栽培しています。

ねぎ、ごぼう共に、年1作です。ねぎの場合は、2月～5月に播種、4月～7月に植え付け、10月～翌年5月に収穫となります。このように、収穫時期を長くできるのは、いくつか異なった品種を選んで、時期をずらして播種、植え付けをしているためです。一方、ごぼうの場合、今年は10月15日頃から、約20日間で播種しました。収穫は毎年6月下旬から8月のお盆頃までになります。高く売れるのは7月末頃までなので、出来るだけ早めに収穫します。現在、ごぼうについては、土づくりをしっかりとすることで、約20年の連作が実現できています。一方、ねぎについては、連作障害を避けるために数年に一度は土地を休ませる必要があります。



ネギの皮むき作業

## 戦略的な作物選び！

現在の栽培形態に至るまでには、経営方法に関する明確な方針、十分な市場調査、栽培方法における試行錯誤がありました。

新井さんは本格的に農業を始める際に、これから何を栽培するかを決めるため、これからの作物が優位になり、十分な収入が得られるかについて、十分に調査しました。地域の卸売市場である群馬中央青果に大量出荷できれば十分な収入になると考え、群馬中央青果に、どのような時期にどのような作物が出ているのか、期間限定の特産物がどのように出荷されているか、実際に何度も足を運んで状況を確認しました。その上で、以下のような基準で栽培作物を選定しました。

### ・機械化

作物を大量に出荷するためには機械の導入が鍵になると考え、機械化が容易な作物を候補にしました。

### ・年間を通じて得られる安定的な収入

農業では毎月经費がかかるため、年間を通じて安定的に収入が得られることが重要と判断し、一年を通じて安定的に出荷できるように作物を組み合わせました。安定して人を雇うためにも、計算できる収



ネギの箱詰め作業

入が得られることが必須です。

#### ・時間的な余裕

時間的にあまり縛られず、ある程度の余裕があり、自分の都合で作業できる作物を選びました。農業を始めても、週1回は休みにして、家族との時間を持つという感覚を大事にしたいと思ったのです。このような観点から、葉もの野菜のように、1日の収穫の遅れが致命的になるような作物は、栽培候補から外しました。

#### ・年間を通じて適度な労働量

労働力についても、奥さんがご両親のお世話に手を取られることもあって、手のかかりすぎの作物は候補から外しました。また、早くから人を雇いましたが、来てもらう以上は年間を通じて安定した雇用を実現したいと考え、そのために、いつも適度に仕事がある作物を選びました。

これらの方針を実現するために、これまで、ほうれんそう、大根、しそ、ごぼう、青首大根、干し大根など、いろいろな作物の栽培を試し、試行錯誤を続けました。ねぎ栽培は、「有限会社たねのオーエス」の社長である大竹さんとの出会いがきっかけで始めました。ねぎ栽培は、大竹社長と一緒にやってきたというのが実感とのことです。そうして、ねぎとごぼうの栽培を軸に、現在の方法に到達しました。

## 収益率向上の鍵は秀品率の向上！

収益の鍵は、作物の秀品率の向上です。そのポイントは、「すべきことを正確にする」とことと、それにより「無駄をなくす」とことです。

作業の正確さは、全ての基本です。たとえば、播種作業では、一斉発芽を目標とします。そのためには、多少高くても良い苗が出来る、信用できる種子を使い、適切な播種深度に揃えるなど、良い環境で統一します。安い種を使って、いいかげんに植えると、一見コストが浮いて楽に思えますが、発芽がばらばらで効率が悪くなり、無駄が出ます。また、植え付けは等間隔で直線になるようきっちり作業します。そうしないと、あとで機械がうまく入らなくなり、無駄が出るうえに作業効率が落ちて、労力も余計にかかります。

作物は、良い環境で統一することで、品質がよくなります。そのためには、栽培面積も犠牲にする場合もあります。たとえば、ねぎは「乾きの作物」で、過度の水気を嫌うため、畑の中に水溜まりができるとよくありません。一部の畑に、水の溜まりやすい部分があったので、植え付け面積を減らして排水溝を増やしました。これにより秀品率を上げることができ、結果として収益が向上しました。

このように理詰めでも、農業では更にその先があり、新井さんは農業の奥深さを感じています。最近は、「自分自身の気持ちに余裕ができた時に良い作物ができる」という気がしているとのことです。



収穫前のねぎ圃場

収益の話が出たので、販売額について少し聞いてみました。10 アールあたりの売り上げは、年度によって異なりますが、ごぼうで40万~50万円、ねぎで70万~80万円が目安です。ねぎは価格が比較的安定している上、年によってはかなりの高値がつくこともあるそうです。

## 人も作物も大事にする新井さんの方針



定年後に元気に働くパートさん

人も作物も、良い環境が大事というのが新井さんの持論です。そのために、働きやすい環境を整え、人の気持ちを理解し、モチベーションを高め、働く人のスキルの向上に努めています。

現在、新井さんのところで働いている人は、定年退職した男性一人と、お子さんがいる女性二人です。お子さんがいる人が働きやすいように、勤務時間については柔軟に変更できるようにしています。

仕事を苦にならないよう感じてもらうコツは、「重い仕事を軽く感じさせる」ように、機械を入れて工夫することです。また、人の気持ちを理解するように努力することも大事です。「この作業には、このような意味があって、

お金につながる」ということを理解してもらおうと、いろいろ大変な作業でもきちんとやってくれます。きちんと作業すればスキルも向上し、その人自身の財産にもなります。たとえば、ねぎの箱詰めも、上手な人が作業すると市場でつく値段が上がります。以前、新井さんのところで箱詰めをマスターした人が、その後、他の農家へ働きに行った時に、箱詰め技術でその農家のねぎの単価が上がったそうです。

また、長く働いてもらうには、気持ちを切らさないことが大事と考えています。仕事がない時期があると気持ちが切れてしまうので、いつも仕事があるということが大事です。以前、大根の価格が暴落して、売っても赤字になることがありましたが、廃棄したりはせず、きちんと収穫し箱詰めして出荷したそうです。

仕事は元気を持ってやっていくことも大事で、そのためには休んでいる時間がポイントになります。勤務時間は8時間で、休みはたっぷり1時間~1.5時間取ります。休んでお茶を飲んでいる時にするいろいろな話で、お互いのことがよくわかるし、さまざまな情報をもらうことができます。

お話を伺っていて、高度なマネジメントに感心しました。ご自身は35歳頃から60歳までフットボールチームの監督をされていたとのことで、その時の経験が役立っているのかもしれないと感じました。

## 新規参入者に丁寧に指導！

新井さんは新しくねぎ栽培を始めた2人の農家さんに栽培方法を伝授しています。新井さんご自身、10年以上の試行錯誤で得た栽培技術とノウハウですが、引き受けた以上、決して失敗させてはいけないと、全てを惜しげなく伝えています。また、実際に収穫し、売れてお金になるところまでいって、初めて教えたことになると考えており、経理面のアドバイスもしていま

す。インタビューの前日、教えた方の一人の初出荷だったとのこと。良いねぎが出荷できたと、自分のことのように喜んでおられました。

ずいぶん人の良い話に思えますが、教えることは自分のためにもなると、新井さんは言います。教えることは自分自身のことを反省する良い機会になります。また、同じやり方をする仲間を増やすことで、何か困ったことが起きても、互いに助け合えます。農家には、手の内をなかなか見せない人も多いのですが、新井さんは「ほんの少し欲得を抑えて視野を広く持てば、いろいろ面白いことができる」と思っています。

新井さんの農業は、これで完成ではありません。新たな作物も含め、これからもいろいろ試していくつもりです。息子さんは現在、土木関係の仕事に従事していますが、新井さんがきちんと収益を挙げ、元気で楽しくやっている様子を見せることで、いずれ後を継いでくれるのではと期待しています。



新井さんお手製の荷台

## あとかき



神社の木に干したダイコン

インタビューでは、昼過ぎから夕刻までじっくりとお話を聞かせていただきました。紙面の都合上、全てを紹介できないのが残念です。本当に有難うございました。

インタビューのあと、作業場とねぎ畑、それに干し大根が干してある所を見せていただきました。干し大根は、霜をよけるため、木の下に干すと良いとのこと。取材日当日は全国的に大荒れの天気、晴れたかと思うといきなり強い雨が降るといった状況でした。当然、干し大根も濡れていましたが、この地域では雨の後には乾燥した冷たい「からっ風」が吹いてすばやく乾

かしてくれるので、大根の傷みを防いでくれるとのことでした。私たちも、その「からっ風」を体験できました。

更にお土産に、目の前に干してあった干し大根を頂きました。輪切りにして、そばつゆの原液に漬けておくことと美味しいということで、家に帰って早速、試してみました。ついでに、梅酢漬けも試みました。どちらもほのかな辛みが効いて味が濃く、ぼりぼりとした歯ごたえがあってとてもおいしく頂きました。どうも有難うございました。(古津、南)

今回の取材は、有限会社たねのオーエス 代表取締役社長 大竹喜久様のご協力で実現しました。深く感謝いたします。

[目次へ戻る](#)

## 西瓜・スイカ雑学(11)



スイカと3匹の猫

## スイカ果実汚斑細菌病

“スイカ、メロン産地にゲリラ的発生”

昭和41年(1966)に西日本のキュウリを中心にキュウリ緑斑モザイクウイルス(CGMMV)が発生しました。その2年後、関東のスイカで緑斑モザイク病が突発し、果肉が煮えたような状態、通称「コンニャク果」と呼ばれる到底食べることのできない腐敗果となり甚大な被害をもたらしましたが、両者ともに適切な対策がとられた結果、現在ではほぼ終息しています。

緑斑モザイク病と同じく種子伝染によって突発的に発生するスイカ果実汚斑細菌病がわが国にも侵入・発生しました。この病気は1989年から1995年にアメリカのスイカに大発生して収穫果実の半分以上が腐敗するという大きな被害を出しました。わが国では植物防疫法で国内への侵入を警戒していたところ、平成10年(1998)、山形県のスイカに国内で初めて本病が確認されました。定植前の苗、定植後の茎葉、果実に細菌病特有の腐敗、周囲に黄色帯を伴う病斑、果実の褐色斑点、亀裂を伴う汚斑の症状が見られました。その後、翌年の1999年から2005年まで長野県、鳥取県、青森県、徳島県のスイカ、北海道、茨城県のみでゲリラ的に発生しています。しかし2006年から2008年の間は国内での発生がなく、終息かと思われた矢先の2009年に山形県、秋田県で発生が確認され、産地に本病原菌が定着しているとは言えないまでも、種子や苗で持ち込むと、何時、どここの産地で突発してもおかしくない状況です。

これまでに、この病気はスイカ、メロンの他、カボチャ、キュウリでの自然発生が確認されており、その発生地域はアメリカ、台湾、中国、トルコ、イスラエル、タイ、オーストラリア、韓国、ブラジル、南アフリカ、イランなどとなっています。この内、中国、タイなどアジア諸国ではわが国の種苗会社が採種場として使っており、感染した種子の持ち込み頻度が極めて高くなっています。今後、わが国で栽培面積の多いキュウリへの被害拡大が案じられています。

国、都道府県の試験場、種苗会社の組織的な調査・研究によって、その発生生態と防除技術、種子消毒法等が明らかになりつつありますが、被害株や被害果実の残渣処理や種子消毒が徹底



果実汚染細菌病・亀裂大型汚斑(小木曾原因)



緑斑モザイク病 果実の被害

されてか、特定の産地で毎年発生することは今のところ回避されています。



PCR法等による社内検査（ナント種苗原図）



乾熱処理装置（ナント種苗原図）

その防除対策には大きく2つが考えられます。ひとつは、種子生産場面での汚染種子を作らない、外に持ち出さないことです。人件費等の関係で国外採種が増えている現状では、現場指導が不徹底になりがちで、発病・汚染果実からの採種に加え、訪花昆虫のミツバチ等々に運ばれた病菌が、雌花の柱頭から種子内部にまで侵入することが確認されています。従って種子消毒は種子表面を対象に食酢、銅製剤を使い、併せて乾熱（70℃、4日間）処理が効果的です。2つ目は、育苗～本圃での対策で、接木作業、接木後の養生期間の高温多湿条件でまん延させないように、器具の消毒、薬剤散布によって発病を抑制することです。細菌性の病害は、一度発生すると薬剤等で押さえ込むことが極めて難しく、予防的な処理と如何に圃場に持ち込まないかに細心の注意が必要です。幸いにして被害茎葉での土壌中での生存力は比較的弱いようなので、無病種子の確保ならびに種子消毒によって、育苗圃での初期感染、被害の絶滅によって本圃での被害は回避できそうです。

本病の詳細情報については「ウリ科野菜果実汚斑細菌病防除マニュアル（一般栽培用、種子生産・検査用）」の冊子に記されています。独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所のホームページからPDFファイルとして入手できますので参考にしてください。

（小玉技術顧問）

[目次へ戻る](#)

## 食の安全性について考える(20)

## 農薬の作物残留

農薬を取り扱うにあたり、大きな3つの安全性が問われることになる。

第1は、農薬の取扱者すなわち農薬の製造、散布作業などに従事しているものが被害にあう場合。第2に、農薬が作物に残留し、それが摂取されて人体に影響を及ぼす場合。第3に、農薬が自然環境や生態系に及ぼす影響などについてである。

特に、近年は環境運動の高まりとともに農薬への関心も一段と強まっている。それらのことを踏まえ、農薬の安全性について、わかりやすく解説した農薬工業会編「なるほど！なっとく！農薬Q&A」をしばらく掲載したい。(古津)

**Q：作物に使われた農薬はいつまで残っているのですか。**

**A：**作物に施用された農薬の挙動は、有効成分や、施用方法によって異なります。

農薬散布により作物に付着した農薬成分は、降雨により洗い流されたり、太陽光や微生物の分解により短期間の間に減少・消失します。農薬の一部は、吸収され植物体内に入り植物の持つ酵素で代謝分解したり、生育に伴う植物体の肥大によって薄まります。

環境中に出た農薬も同様に加水分解・微生物分解・光分解により減少・消失します。一方、土壌処理(株元処理)された農薬の一部は、根から吸収され植物体内に入りますが、そこで代謝分解されたり、薄まったりします。土壌中に残った農薬は、加水分解や、微生物により分解されます。

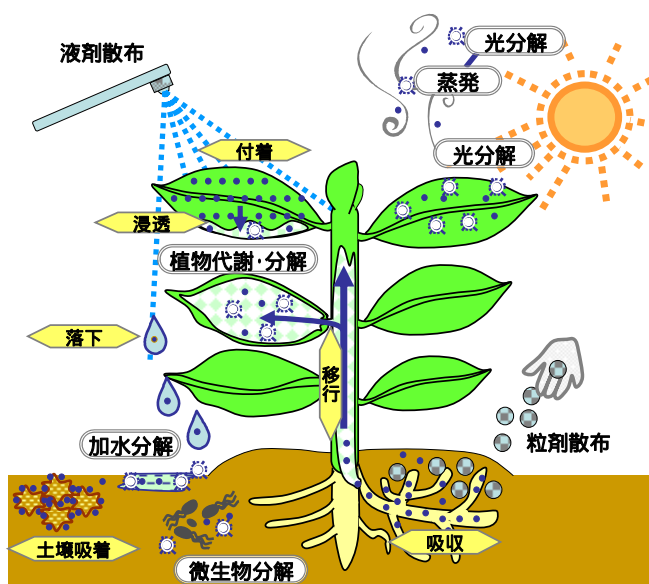
(図1参照)

農薬は、農薬取締法により作物ごとに使用時期、使用回数、使用量が定められていますが、例えば使用時期に『収穫 日前まで』といった制限をつけるのは、このような農薬の分解・消失の現象に従って、収穫時に残留が残留基準値以下になるようにするためです。

実際に、農林水産省が平成18年度に実施した農作物の残留実態調査の結果では、1291点の農産物のサンプルのうち、802点の農作物では農薬が検出されず、農薬が検出された事例でも、一例を除いてすべて基準値以下でした。

このように、農薬が作物に長期にわたって残留するというイメージは、DDT・BHC等現在は使用されていない過去の農薬のイメージであって、現在使用されている農薬の残留性とは異なります。登録されている農薬をラベルに従って正しく使用した作物は、農薬の残留に関し安全面の問題はありません。ただし、衛生面では食べるときに野菜や果物を水でよく洗うことは望ましいことです。

図1 散布された農薬の動き



[目次へ戻る](#)



今月のお奨め農薬
----------

## 天然物質殺菌・殺ダニ剤 **ポリオキシシン AL 水溶剤「科研」**

冬期の施設栽培では夜間の加温等で施設内は外気温よりも高く管理され、病害虫が発生しやすい環境になります。トマト、なす、いちご等の果菜類ではうどんこ病、灰色かび病等が多発します。ポリオキシシン AL 水溶剤「科研」はこれら重要病害の防除にお奨めの薬剤です。

ポリオキシシンは1961年(昭和36年)に熊本県阿蘇地方の土壤中から分離・発見された微生物 (*Streptomyces cacaoi* subsp. *asoensis*) が生産する天然物質で、類似構造の A から N の成分が発見されています。ポリオキシシン AL 水溶剤「科研」はポリオキシシン複合体を有効成分とし、野菜・花き類のうどんこ病、灰色かび病等に登録を取得しています。

ポリオキシシンの作用は植物病原菌の細胞壁構成成分(キチン)の合成阻害です。胞子の発芽管や菌糸の先端に球形膨潤化を起こし、病原菌の胞子や菌糸の正常な生育を阻害し、病害の発現および病斑部の拡大を阻止します。また、近年ポリオキシシンのハダニ類に対する優れた IGR 活性(昆虫成長制御活性)が見出され、2009年10月に野菜・花き類のハダニ類に対する登録を取得しています。



**ポリオキシシン AL 水溶剤「科研」**

### **【ポリオキシシン AL 水溶剤「科研」の主な特長は次の通りです】**

1. 各種植物病原菌(糸状菌)に対して強い殺菌活性がある  
植物病原菌の細胞壁構成成分(キチン)の合成阻害作用により、各種植物病原菌(糸状菌)に対して強い抗菌活性を示します。
2. 優れた殺ダニ効果がある  
ハダニ類に対して IGR 活性(昆虫成長制御活性；脱皮阻害および産卵抑制作用)があり、優れた殺ダニ効果があります。
3. 各種殺菌剤耐性菌に有効である  
既存の殺菌剤と作用性が異なるので、各種殺菌剤の耐性菌に効果があります。
4. 人畜・魚介類・有用動植物に安全性が高く、環境にやさしい  
動物細胞は細胞壁を持たず、また植物細胞はキチンを細胞壁の構成成分としていないので、一般の動植物に対して極めて安全性が高いです。また、環境中において速やかに分解代謝されるため、環境に対する負荷が非常に小さいです。
5. 「特別栽培農産物」で化学合成農薬としてカウントされない(但し、地域限定あり)  
天然物由来の農薬であり、全国の約半数の県で「特別栽培農産物」で化学合成農薬としてカウントされない農薬として認められています。

### **【ポリオキシシン AL 水溶剤「科研」の上手な使い方】**

どの病害も発病が旺盛になる前の予防的な使用でより高い効果が得られます。

うどんこ病、灰色かび病に対しては他の殺菌剤との混用やローテーション散布で一層効果が高くなります。

薬剤耐性菌の出現防止のため、過度の連用は避け、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせで輪番で使用してください。

(灰色かび病に効果のある薬剤)	スミレックス水和剤、ダコニール 1000、ゲッター水和剤
(うどんこ病に効果のある薬剤)	ダコニール 1000、サブロール乳剤
(ハダニ類に効果のある薬剤)	ロディー乳剤、ロディーくん煙顆粒、オサダンフロアブル、オサダン水和剤 25

( 鳥取 )

[目次へ戻る](#)

今月のご相談から

## 新規水稲用除草剤

# 「忍(シノビ)」について教えてください。



**Q1.** 今年、忍フロアブルと忍1キロ粒剤が上市されたことですが、忍剤はどのような特長があるのか教えてください。また、ジャンボ剤の上市は予定していますか？

**A1.** 忍フロアブル、忍1キロ粒剤に続き、「忍ジャンボ」が平成22年9月22日付で新規登録になり、平成23年春に上市の予定です。忍剤には新規成分「ピラクロニル」を含む3種類の有効成分がバランス良く入っていて、幅広い殺草スペクトラムがあります。含有するそれぞれの成分の特長は以下の通りです。



忍フロアブルと忍1キロ粒剤

ピラクロニル	ノビエ、一年生広葉雑草（特にコナギ）、オモダカ等に高い除草効果があります。
ベンゾピシクロン	SU抵抗性雑草、イボクサ等の難防除雑草に有効です。
イマゾスルフロン	多年生カヤツリグサ科雑草等に高い効果があります。

従って、忍剤は次のような特長を持つ水稲用初・中期一発処理除草剤です。

SU抵抗性雑草やノビエ、多年生カヤツリグサ科雑草まで幅広く効きます。

移植直後からノビエ 2.5 葉期まで、幅広い使用時期で使えます（ジャンボ剤の九州は2葉期まで）。

省力的な田植同時散布が可能（フロアブル、1キロ粒剤のみ）です。投げ入れるだけのジャンボ剤（北海道は除く）も間もなく登場します。

**Q2.** 新規成分「ピラクロニル」の効果発現のメカニズムを教えてください。

**A2.** 植物が生きていくには光合成が必要ですが、この光合成を行うのが葉緑素です。ピラクロニルは植物体内で葉緑素の合成を阻害して、植物を飢餓状態にします。更に植物体内で活性酸素を発生させ、植物の細胞を破壊し、葉や茎の組織を壊死させます。なお、この作用は植物の光合成に関わるもので、動物ではこのような作用はなく、人畜には安全です。

**Q3.** 忍剤の「ミズアオイ」に対する効果を教えてください。

**A3.** (財)日本植物調節剤研究協会による委託試験結果から、ミズアオイ（SU抵抗性を含む）に対して「1葉期まで」の処理で、高い効果が確認されています。

**Q4.** 忍剤を「浮き草」のある田んぼに使用した場合の効果はどうか？

**A4.** 多少浮き草が発生している程度であれば、3剤共に効果があります。しかし、浮き草が多発すると忍ジャンボは拡散が不十分になり効果が劣るので、使用を避けてください。いずれの場合も、適正な水深を保って散布してください。

(小川)

[目次へ戻る](#)

**農薬登録情報** 12月13日付の新規登録内容です**新規登録****新規水稲用初・中期一発処理除草剤 ゼータワン剤・メガゼータ剤登場!**

ゼータワン剤・メガゼータ剤は、いずれも住友化学が新規開発した成分「プロピリスルフロン(一般名)を含有する水稲用初・中期一発処理除草剤です。

プロピリスルフロンは、ノビエをはじめ、幅広い一年生雑草・多年生雑草に高い効果を示します。このため1成分で初・中期一発処理除草剤としての性能を有する画期的な除草剤です。

なお、ゼータワン剤・メガゼータ剤いずれも販売開始は2011年春を予定しています。

\*\*\*\*\*

**ゼータワン剤(プロピリスルフロン単剤)****ゼータワン1キログラム粒剤 農林水産省登録 第22834号**

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 及 び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ (北海道) ヒルムシロ セ リ (九州を除く)	移植後5日~ 元I2.5葉期 ただし、 移植後30日 まで	砂壤土 ~ 埴土	1kg /10a	2回以内	湛水散布	全域の 普通期 及び 早期栽培 地帯	2回以内

**ゼータワンフロアブル 農林水産省登録 第22836号**

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 及 び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ (北海道、東北) ヒルムシロ セ リ (北陸、九州を除く)	移植後5日~ 元I2.5葉期 ただし、 移植後30日 まで	砂壤土 ~ 埴土	500 mL /10a	2回以内	原液湛水 散布	東北	2回以内
			壤土 ~ 埴土				全域 (東北 を除く) の普通 期及び 早期栽 培地帯	

**ゼータワンジャンボ 農林水産省登録 第22844号**

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ (北海道、東北) ミズガヤツリ (北海道を除く) ウリカワ ヒルムシロ セリ イソノサヤヌカクサ (北海道) オモダカ クログワイ (北海道を除く) コウキヤガラ (関東・東山・東海、九州)	移植後5日～ ルI3葉期 ただし、 移植後30日 まで	砂壤土 ～ 埴土	小包装 (パック) 10個 (400g) /10a	1回	水田に小 包装(パック) のまま投 げ入れる。	全域の普通 期及び早期 栽培地帯	2回以内

\*\*\*\*\*

**メガゼータ剤(プロピリスルフロンとピラクロニルとの混合剤)**

**メガゼータ1キロ粒剤 農林水産省登録 第22842号**

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ピラクロニル、プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ (北海道、東北) ヒルムシロ (北陸を除く) セリ イソノサヤヌカクサ (北海道) オモダカ (北海道) アオミドロ・ 藻類による 表層はく離 (北海道、東北 を除く)	移植後5日～ ルI3葉期 ただし、 移植後30日 まで	壤土～ 埴土	1kg /10a	1回	湛水散布	北海道	2回以内
			砂壤土 ～ 埴土				全域(北海 道、九州を除く) の普通期 及び早期 栽培地帯	
		移植後5日～ ルI2.5葉期 ただし、 移植後30日 まで					九州の普 通期及び 早期栽培 地帯	

### メガゼータフロアブル 農林水産省登録 第22840号

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ピラクロニル、プロピリスルフロンを 含む農薬の総 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバ ホタル ウリカ ミズガヤ (北海道を除く) ヘラオモ ヒルムシ セ イソノサ シ オモ (北海道、東北、 北陸、近畿・中国・ 四国) クログ (北陸、近畿・ 中国・四国) コウキヤ (東北、関東・ 東山・東海、九州) アオミド 藻類による 表層はく離 (関東・東山・ 東海、近畿・中国・ 四国、九州)	移植後5日～ ルI3葉期 ただし、 移植後30日 まで	壤土 ～ 埴土	500ml /10a	1回	原液湛水 散布	北海道	2回以内
		移植後5日～ ルI2.5葉期 ただし、 移植後30日 まで	砂壤土 ～ 埴土				全域(北海 道、九州を 除く)の普 通期及 び早期 栽培地 帯	

### メガゼータジャンボ 農林水産省登録 第22838号

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ピラクロニル、プロ ピリスルフロンを 含む農薬の総 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバ ホタル ヘラオモ ミズガヤ (北海道を除く) ウリカ ヒルムシ セ アオミド 藻類による 表層はく離 (北陸、関東・東山・ 東海、近畿・中国・ 四国)	移植後5日～ ルI3葉期 ただし、移植後 30日まで	壤土 ～ 埴土	小包装 (パック) 10個 (400g) /10a	1回	水田に小 包装(パック) のまま投 げ入れる。	北海道	2回以内
		移植後5日～ ルI2.5葉期 ただし、移植後 30日まで	砂壤土 ～ 埴土				全域(北海 道、九州を 除く)の普 通期及 び早期 栽培地 帯	

(佐伯)  
[目次へ戻る](#)

**病害虫発生情報**

12 / 3 ~ 14

**長野県**

\* 12月6日 特殊報 ブルーベリー / ブルーベリー白紋羽病(仮称)

当社登録薬剤: 該当なし

詳細は: <http://www.pref.nagano.jp/xnousei/boujo/>**岐阜県**

\* 12月3日 特殊報 ほうれんそう / ホウレンソウべと病レース8

当社登録薬剤: ボルドー(水和剤)野菜類として

詳細は:

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo-koyo/nogyo/gijutsujoho/byogaichu-bojoshu/yosatsu/warning/>**山口県**

\* 12月14日 特殊報 きく(施設栽培) / キク茎えそ病( )

( 本病はミカンキイロアザミウマの一齢幼虫が吸汁することで感染する。)

当社登録薬剤: ダントツ水溶剤、ダントツ粒剤(アザミウマ類)、ベストガード水溶剤、ベストガード粒剤  
(ミカンキイロアザミウマ)詳細は: [http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp\\_open/a1720160/00000002/index.htm](http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a1720160/00000002/index.htm)**適用内容を確認して、地域に適した薬剤をお使いください。**

(小川)

[目次へ戻る](#)

# 最近の「お・・美味しい！」

## 年末冷蔵庫整理 大作戦！

弊社相談室から佐伯がお送りします  
最近の「お・・美味しい！」  
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み？の目(笑)で、  
毎月「これぞ！」というものを紹介します。  
どうぞお楽しみに♪♪♪

自慢では無いのですが、私は「自分で買ってきた食材を使い切れず処分してしまう」ということがほとんどありません。だからと言って、残るのを恐れて食材をなるべく買わないというわけでもありません。食卓に3品以上乗らないと満足しない私は、逆にスーパーに行くのが大好きで、食材を見るとああこれはこうしよう、あれはああしようと考えてあれこれと買い込んでしまいます。その買い込んできた食材を、その1週間でいかに使い切るか！これに日々、情熱を注いでいると言っても過言ではないかもしれません。現に、金曜日頃になると冷蔵庫から食材がほぼ消えます。すっきりした冷蔵庫を見ては一人ほくそ笑む日々・・・( 怪しい )

**余計なものはなるべく買わない。**でも食材は幅広く購入し1週間で使い切る。このように暮らしていても、特に年末は予期しない頂きもの、予期しない宴会などが入り、当初の予定どおりに食材が使えないことが多くなります。そうすると冷蔵庫に食材が入りっぱなしで、それら食材たちが「はよ使ってくれや」と無言のプレッシャーをかけてきます( 本当 )。そんな時は、たいがい大鍋にいろいろ入れて煮込んでしまいます。冷蔵庫もすっきりするし、寒い季節なので体も温まるし、どんどん美味しくなるしで、一石三鳥！と、まあここまでなら何年でも年末でなくても普段からやることです。しかし、年末になると、気分的にも年始までには冷蔵庫の中を本当にすっきりさせたいので、お正月料理用の食材を買い込むまでは、何とか新しく買わずに今ある食材を使って何とか乗り切ろうとしてしまいます。

**そこで！さきほど作った大鍋煮込みの後の煮汁を**最大限活用アレンジするのです。そうすれば、イチから何か料理を作るより買い込む食材は抑えられるし、買い込む量の調整も効きます。例えば、「おでんカレー」。冬の定番「おでん」を大量に作って大体食べきった後、煮汁と少し残った具をそのままに、家に備蓄している



見た目は怖いけど美味しいおでんカレー



スーラータン風春雨スープ

玉ねぎを加えて、カレールーを入れたら「おでんカレー」の出来上がり。見た目はコンニャクやら入っていて不気味ですが( 笑 )、味はダシが効いていて絶品です。また、我が家では定番の「酢鶏」。これは鶏の手羽と玉ねぎを(ほぼ)お酢で煮込むコラーゲンたっぷりの料理。これも大体食べきったら、煮汁を少しお湯で薄めて残った食材(例えばニンジンやネギ)を細かく刻んだもの、春雨、卵など、「入れたら美味しいだろうなー」と思う残りものを投入し、ゴマ油とラー油を最後に垂らせばこれが絶品「スーラータン風春雨スープ」の出来上がり。鶏の旨みが出たスープを使うわけですから美味しくないのでありませんよね。むしろ煮汁を捨てる方がもったいない！

**と、こんな風に、特に年末は買い込む量と使う量のバランス**に気を遣っています。さて、実はこの記事を書いているのは12月16日です。今のところ、ウチの冷蔵庫には生鮮食品として長芋半分・大根半分・葉ネギ少々・生ワカメ少々・ハムのかたまり2個・納豆・卵があります。備蓄のたまねぎ・にんにく・乾物・缶詰等をうまく組み合わせれば年末までにキレイに使い切れそうな気がします。さてどうなることやら・・・!? ( 佐伯 )

今年も「お・・美味しい」をご愛読いただきありがとうございました。  
来年もどうぞよろしくお祈りします！

[目次へ戻る](#)

**そば談義 72号 (最終回)**

数年前から各都府県の農薬管理指導士\*の皆さんに「農薬の安全性」について講演をするようになった。

農薬の普及や営業をしていた頃は、農家さんや販売店の方を相手に農薬の効果・効能ばかりを説明していた。時々、農薬の安全性について質問があれば、ラベル通りに使用すれば問題はないと云ってきた。

それが「お客様相談室」に配属になってから、農薬の安全性に関して強く意識するようになった。毎日のお客様から農薬の安全性に関する説明を求められるからである。そのため、詳しい人に教を請うたり自分でも勉強するようになった。また、私にとって幸いしたのは農薬工業会の「安全対策委員会」のメンバーに加わることが出来たことである。その安全対策委員会は4つのグループから構成されている。1、レスポンスフルケア(化学物質の自主管理)、2、プロダクトスチュワードシップ(化学物質の総合安全管理)、3、農薬中毒対策、4、コミュニケーション(相互的な情報伝達)で、私はコミュニケーショングループに所属している。このグループの活動目的は農薬の安全性についての解説書や農薬の危害防止のリーフレット作成、会員会社の窓口相談担当者の対応力向上のための講習会である。また、もう一つの大きなグループの活動は「農薬の安全性」に関連する講習会や研修会への講師派遣事業である。農薬に関わる法律、登録制度、安全性、リスク評価、リスク管理および適正使用等について、各分野の専門家が資料を作成して、それをもとに各地で講演している。

私も冒頭に述べたように派遣講師として各地へ講演に出掛ける。最近は消費者団体向けにも講演依頼がある。そこで実施したあとの反響は、もっと早くこういう農薬の安全性についての説明を聞きたかったと云う声が多い。農薬の事故があると30~40年前に使用されていた毒性が強く長期に残留する農薬のイメージで、マスコミは騒ぎ立てる。そのために長期残留農薬が今でも使われていると信じている人が多い。そんな農薬のマイナスイメージを少しでも払拭するために農薬の安全性の説明を続けたいと思う。少々キザかもしれないが40年近くこの業界にお世話になり、少しでも恩返しをしたいという気持ちもある。

それと、ぜひやってみたいことがある。それはそばを通して知り合った江戸ソバリエ倶楽部の面々に農薬の安全性について講演をしてみたい。そのためには一般人に、もっと噛み砕いた説明が出来るような工夫や話し方の訓練をしていきたい。そして、農薬はラベルどおりに使用すれば安全だということと、ラベルに記載された内容の裏づけを一般人にもわかり易く説明が出来ないかと考えている・・・。

最後に、今まで「そば談義」をご愛読いただき、誠にありがとうございました。(古津)

\*：農薬管理指導士養成研修を受けて認定試験に合格し都道府県知事から認定された者。



挿絵：川俣さん

### ～ 編集後記 ～

2010年もあと数日を残すのみとなりました。残念ながら、今年も様々な異常気象に見舞われた一年で、農家さん訪問でも、気候変動のことが毎回のよう話題に上ります。自然が相手の農業ですので、作物の植え付け時期の変化などを通じて、どの方も変動を実感されているようです。

そんな中、私の住んでいるあたりには、例年どおりたくさんのメジロが戻ってきました。野鳥好きとしては一安心なのですが、これ以上気候変動が大きくなると、毎年当たり前であったはずの風景が一変するかもしれません。そうならないことを祈るばかりです。

さて、私事ですが、来年は年男です。生来運動は苦手ですが、気持ちだけでも「うさぎのようにジャンプ！」できるように頑張りますので、来年も「住友化学 i 農力だより」を宜しくお願い致します。(南)



メジロ(南撮影)